

## (1) 平成30年度事業報告について

## ○ 動物愛護教室

動物愛護思想及び動物の適正飼養の普及啓発を図るには、次代を担う子供たちに対する教育が不可欠であることから「動物の愛護及び管理に関する法律」及び「岐阜県動物の愛護及び管理に関する条例（所有者等の義務及び遵守事項）」に基づき、小学生を対象として動物についての理解、生命を慈しむ心の育成、動物愛護意識の高揚及び動物による危害の防止を目的とした動物愛護教室を開催する。

平成30年度は、各保健所で17回実施した。

## 動物愛護教室開催状況

回数等／年度	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
開催回数	8	11	9	15	17
受講人数	235	519	442	1,223	1,520

## 【平成30年度実施報告】

岐阜保健所及び本巣山県センター（羽島市立正木小学校）

- 実施方法及び内容（講師：動物愛護推進員、保健所）
  - ・保健所の動物愛護管理業務について講義。
  - ・狂犬病について講義。
  - ・動物愛護推進員の協力で犬とのふれあいを実施。
- 保健所担当者の所感
  - ・ふれあい犬を同伴させやすい時期で開催できるとよい。

西濃保健所及び揖斐センター（神戸町立下宮小学校）

- 実施方法及び内容（講師：保健所）
  - ・保健所の動物愛護管理業務について講義。
  - ・犬猫の適正飼養について。
- 保健所担当者の所感
  - ・猫の快適な部屋について考えるグループワークを実施した。
  - ・犬の飼い方、野良猫への餌やりに関する話はストレートに伝わり、愛護教室の重要性を感じた。

関保健所（関市立富野中学校）

- 実施方法及び内容（講師：動物愛護推進員、保健所）
  - ・獣医師の仕事について。
  - ・保健所の動物愛護管理業務について講義。
- 保健所担当者の所感
  - ・講義中に生徒に質問すると、反応が良く、様々な意見が出てきた。
  - ・写真を多く使用することで生徒の興味を引くことができた。しかし、中には、子供に見せるには適さない写真が含まれていたため写真の選択に注意が必要であると感じた。

郡上センター（郡上市立明方小学校）

- 実施方法及び内容（講師：動物愛護推進員、保健所）
  - ・保健所の動物愛護管理業務について講義。
  - ・動物愛護推進員による犬猫との接し方について講義。
  - ・獣医師と動物愛護推進員のもと、3頭の犬と児童による犬とのふれあいの実施。

- ・動物愛護推進員による動物介在活動について講義。
- 保健所担当者の所感
  - ・講師（推進員）は、獣医師としての経験やJ A H Aのパピーケアスタッフ養成講座の受講、獣医師会開催の「命の授業」の講師経験があり、児童にわかりやすい講義であった。
  - ・動物愛護センターを知っている児童はいなかったが、アンケートに行ってみたいという意見が多数見られた。

可茂保健所（美濃加茂市立蜂屋小学校、太田小学校、伊深小学校、古井小学校、下米田小学校、山之上小学校、加茂野小学校、可児市立帷子小学校、八百津町立和知小学校、）

- 実施方法及び内容（講師：農業生産法人、美濃加茂市教育委員会、美濃加茂市土木課、八百津町総務課、岐阜大学、保健所）
  - ・ヤギ除草についての説明、クイズ。
  - ・ヤギを用いたふれあい。
  - ・ヤギの生態やふれあい時の注意事項、ヤギによる除草について講義。
  - ・ヤギと自分の心音比べ。
  - ・動物の適正飼養に関する説明。
- 保健所担当者の所感
  - ・積極的にヤギと触れ合う児童がいる一方、ヤギが怖いと感じる児童もいた。
  - ・学校側の柔軟な対応で休み時間の対象以外の児童もふれあいができた。
  - ・動物への関心を高めるために非常に有用な事業であった。

東濃保健所（多治見市立養成小学校）

- 実施方法及び内容（講師：保健所）
  - ・当日の給食を例に、食べ物が何からできているのか説明し、いのちへのつながりを説明。
  - ・ウサギの心音を聞いてもらった。
- 保健所担当者の所感
  - ・質問や疑問に一生懸命答えようとする姿勢がみられた。
  - ・後日、食べ物と命について考えた感想文が届き効果が得られたと感じた。

東濃保健所（土岐市立濃南小学校）

- 実施方法及び内容（講師：動物愛護推進員）
  - ・ウサギの生態や接し方について講義。
  - ・ウサギとのふれあい及び人とウサギの心音の聞き比べを実施。
- 保健所担当者の所感
  - ・ほとんどの生徒がうさぎに触れ合った経験があり、取り扱いが丁寧だった。

恵那保健所（中津川市立加子母小学校）

- 実施方法及び内容（講師：動物愛護推進員）
  - ・生き物の命についての講義。
  - ・うさぎの心音を聞き、人とうさぎの心音の違いについて説明、うさぎの管理方法等について講義。
- 保健所担当者の所感
  - ・うさぎの管理方法を学んだ後にふれあいを行ったことから、学んだことを実践できていた。
  - ・当該小学校はうさぎを飼育しているが馴れていないためふれあいができない。今後は馴らすために、うさぎの気持ちを考えた飼育管理を行うことを期待する。

飛騨保健所及び下呂センター（中山保育園）

- 実施方法及び内容（講師：動物愛護推進員、保健所）

- ・動物愛護に関する講義。
- ・動物とのふれあい方の講義。
- ・食物と動物のつながりに関する講義。
- 保健所担当者の所感
  - ・感受性が豊かで柔軟な思考の幼児期に、動物とのふれあいや命について考える機会を設けることは、大変有意義であると感じた。
  - ・犬猫も家畜も同じ命であるとの話を真剣な表情で聞いている園児が多かった。

## ○ 愛犬のしつけ方教室

近年のペットブームを背景に犬及び猫をはじめとして動物を飼養する家庭が増加し、不適正な飼養による犬及び猫に関する保健所へ寄せられる苦情は多く、保健所に収容される犬及び猫は県下で年間約1,600頭(平成30年度)に上っている。また、災害時にはペットを連れて避難する飼い主が多いと予想され、人の生命、身体、若しくは財産に害を加えないよう日常からしつけを行うことは重要なことである。

このため、基本的な犬の「しつけ方法」等を広く県民に普及し、犬の適正飼養の推進を図る。

平成30年度は各保健所で11回実施した。

平成31年度は保健所での主催は廃止。

### 愛犬のしつけ方教室

回数等／年度	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
開催回数	1 0	9	8	8	1 1
受講人数	3 9 6	2 5 2	1 7 9	1 0 9	2 1 4

#### 【平成30年度実施報告】

##### 岐阜保健所（羽島市中央中グラウンド）

- 実施方法及び内容（講師：動物愛護センター）
  - ・羽島市総合防災訓練におけるペット同行避難訓練の一部として実施。
  - ・日頃からの災害への備えや健康管理としつけ、備蓄品について。
- 保健所担当者の所感
  - ・日頃からケージに慣らすことの必要性について実感してもらうきっかけとなった。

##### 西濃保健所及び揖斐センター（西濃総合庁舎テニスコート×2回）

- 実施方法及び内容（講師：動物愛護推進員、保健所）
  - ・地域の広報により開催の周知を行い、申込みは抽選とした。
  - ・1歳くらいまでの犬を対象とし、基本的なしつけ方法について講義した。
  - ・講師による命令の仕方、ほめ方、散歩の仕方、ハウスのしつけ方の講義と実演。
  - ・最後に相談時間をとり、個別に対処法などのアドバイスをした。
- 保健所担当者の所感
  - ・個別のしつけの悩みに対応するのは教室形式では困難なため、今回は内容を基本的なしつけとし、1歳くらいまでの犬を対象に実施。
  - ・しつけ方法を学ぶだけでなく、しつけの重要性についても学ぶ良い機会になった。

##### 関保健所（中濃総合庁舎）

- 実施方法及び内容（講師：動物愛護推進員、保健所）
  - ・美濃市は広報誌、関市あんしんメールを用いて参加者を募集した。
  - ・飼い主の義務や災害時に向けた問題行動解決等について講義、犬のしつけの基本訓練について実演。
- 保健所担当者の所感
  - ・例年は屋外での実技だったが本年度は屋内で行うことができた。天候の心配はなかったものの、28人の参加者には狭く感じられた。
  - ・市にメール登録されている方への募集だったため、例年よりも参加者が多く早急に定員に達した。

#### 郡上センター（美並総合体育館）

- 実施方法及び内容（講師：動物愛護推進員、保健所）
  - ・郡上市総合防災訓練大規模現地訓練におけるペット同行避難訓練実施に伴い、災害対策のためのしつけ方教室を行った。
    - ・クレートトレーニング。
- 保健所担当者の所感
  - ・郡上市はペット同伴避難訓練の実施が初めてだったため、小型犬のみの参加とした。
  - ・参加者のみではなく、見学者への説明も考慮した準備が必要と感じた。
  - ・年1回のしつけ方教室では犬の問題行動の解決には至らないため、長期的な指導に結び付けられる機会となることを期待したい。

#### 可茂保健所（八百津町立綿津小学校）

- 実施方法及び内容（講師：保健所、動物愛護センター）
  - ・動物愛護センター出前講座、犬とのふれあいとともに、犬のしつけ方の講義を行った。
- 保健所担当者の所感
  - ・動物愛護教室の内容に、しつけを盛り込むことで、現在、犬を使用していない方へもしつけの重要性を伝えることができた。
  - ・個々の犬の悩みをすぐに改善させることは難しいと感じた。
  - ・しつけの重要性についての講義内容はこれから犬を飼養したい人へ向けたものも充実させる必要を感じた。

#### 東濃保健所（自治会集会所）

- 実施方法及び内容（講師：動物愛護推進員、保健所）
  - ・保健所職員による「被災時の飼い主の対応について」講義。
  - ・講師による基本的なしつけ方の講義。
  - ・野外で実演の実施。
  - ・それぞれの飼い主が抱える悩みに対し、アドバイスの実施。
- 保健所担当者の所感
  - ・無理やりしつけようとする飼い主が多く、犬の気持ちへの配慮が足りないと感じた。
  - ・災害時にどのような備蓄を用意しておくのか、実物をみて確認することで災害時の備えの意識が向上したと思われる。

#### 東濃保健所（東濃西部総合庁舎）

- 実施方法及び内容（講師：動物愛護推進員、保健所）
  - ・保健所職員による「被災時の飼い主の対応について」講義。
  - ・講師による基本的なしつけ方の講義。
  - ・野外で実演の実施。
  - ・それぞれの飼い主が抱える悩みに対し、アドバイスの実施。
- 保健所担当者の所感

- ・犬のしつけに関する悩みに対応するだけでなく、安易に飼い始めることができる日本の環境を変える必要もあると感じた。

#### 恵那保健所（市民会館）

- 実施方法及び内容（講師：動物愛護推進員、動物愛護センター、保健所）
  - ・恵那環境フェア2018において、「動物と幸せに暮らすために」をテーマに動物愛護センターと共同開催した。
  - ・しつけ方や問題行動に関する相談の実施。
- 保健所担当者の所感
  - ・これまで単独で行っていたしつけ方教室を環境フェア内で行うことで、多くの来場者があった。
  - ・個別に対応することで、相談者が満足のいくまで相談にのることができた。
  - ・犬を連れた来場者には屋外で実演を行うなど、柔軟な対応ができた。

#### 飛騨保健所（高山市役所）

- 実施方法及び内容（講師：動物愛護推進員、保健所）
  - ・高山市市民健康まつりのコーナーとして参加。
  - ・基本的なしつけ方をデモ犬や犬を連れた飼い主と実演。
  - ・猫の室内飼育の啓発も併せて実施。
  - ・ペット防災対策の啓発も実施。
- 保健所担当者の所感
  - ・出入口付近のコーナーだったため、多くの来場者に相談に立ち寄っていただくことができた。
  - ・隣接コーナーの動物の一時預かりボランティアがボランティア目線で動物の飼養管理の助言をするなど、協力しながらしつけについて啓発できた。

#### 下呂センター（下呂総合庁舎）

- 実施方法及び内容（講師：動物愛護推進員、保健所）
  - ・水産研究所のイベントに合わせて「愛犬のしつけ方教室」を実施。
  - ・参加者の犬を用いて問題行動への対処方法について指導。
- 保健所担当者の所感
  - ・例年になく気温が上昇したため、熱中症対策が必要であると感じた。
  - ・家族での参加により、家族みんなでしつけを行うことができるため有意義であると感じた。

### ○ 動物愛護推進員活動支援事業

県が推進員活動の環境を整備し、その活動を支援することにより、県民に対する動物の愛護及び適正飼養等の普及啓発を図る目的で、各保健所及びセンター管内の推進員活動の支援を実施した。

#### 【平成30年度実施報告】

#### 岐阜保健所（国立木曾三川公園桜堤サブセンター）

- 支援を行った活動の内容等
  - ・事業名：犬のしつけに関する講演及び実演
  - ・犬とのふれあいを通して犬の適正飼養や動物愛護の精神を普及した。
- 保健所担当者の所感
  - ・1回当たりの説明が長時間ではなく、短時間を複数回実施することで、より多くの方に犬の適正飼養や動物愛護の精神を普及することができた。

#### 本巢・山県センター（OKBふれあい会館）

- 支援を行った活動の内容等
  - ・ 事業名：動物愛護推進員研修会
  - ・ 動物愛護推進員を対象に動物愛護センターの譲渡の取り組みについて説明。
  - ・ 県の動物愛護推進事業について説明及び報告。
- 保健所担当者の所感
  - ・ 動物愛護センターがまだ知られていないと感じた。

#### 西濃保健所（仁木小学校グラウンド）

- 支援を行った活動の内容等
  - ・ 事業名：平成30年度輪之内町防災訓練
  - ・ 輪之内町防災訓練におけるペット同行避難訓練での受付の実施。
  - ・ ペット同行避難時の避難用品の展示。
- 保健所担当者の所感
  - ・ 係留場所が目につきにくい場所であったため、啓発のために受付とは別に場所を設定すべきであった。

#### 揖斐センター（揖斐川町立大和小学校）

- 支援を行った活動の内容等
  - ・ 事業名：学校飼育動物巡回指導
  - ・ 学校飼育動物巡回指導の中で児童等に対して飼育方法等の講義。
- 保健所担当者の所感
  - ・ 事前にウサギの飼育方法に関する疑問について学校が取りまとめていたため、獣医師の回答が有意義なものになった。
  - ・ 感染症予防についても併せて説明することができ、また、飼育状況を獣医師が把握し、指導することができるため、飼育環境の改善が期待できる。

#### 関保健所（関市立富野中学校）

- 支援を行った活動の内容等
  - ・ 事業名：動物愛護教室
  - ・ 動物愛護に関する正しい知識の向上を目的とした講義。
- 保健所担当者の所感
  - ・ 開業獣医師の推進員との計画準備がスムーズにでき、推進員と保健所が講義内容を分担することで多岐にわたる話ができた。

#### 郡上センター（郡上市立明方小学校）

- 支援を行った活動の内容等
  - ・ 事業名：動物愛護教室
  - ・ 児童を対象に動物愛護に関する正しい知識向上を目的とした講義及び動物とのふれあいの実施。
  - ・ 動物介在活動犬について紹介。
- 保健所担当者の所感
  - ・ 普段犬と接する機会のない児童も積極的に犬とふれあうことができた。
  - ・ 動物介在活動犬を例に人とともに活動している犬について周知することができた。

#### 郡上センター（郡上八幡動物病院）

- 支援を行った活動の内容等
  - ・ 事業名：動物譲渡推進活動
  - ・ 収容動物の譲渡推進及び譲渡後の支援活動

● 保健所担当者の所感

- ・収容猫の健康状態について相談や診察を依頼することで、収容猫の健康不良が改善した。

可茂保健所（美濃加茂市立西中学校）

● 支援を行った活動の内容等

- ・事業名：美濃加茂市まちづくり出前講座
- ・生徒を対象に犬の習性や動物愛護に関する講義。
- ・推進員同行犬によるトレーニングの実演とふれあいの実施。

● 保健所担当者の所感

- ・講義は説明者が生徒に質問を投げかけながら進行了ため、生徒が自ら考える意識を持つことができたと思われる。

東濃保健所（東濃西部総合庁舎）

● 支援を行った活動の内容等

- ・事業名：平成30年度愛犬のしつけ方教室
- ・市民や動物愛護推進員を対象に犬のしつけ方等の講義と実演。

● 保健所担当者の所感

- ・動物愛護推進員を講師とし、管内の他動物愛護推進員にしつけ方を学んでもらう機会とすることができ、今後の推進員活動に役立てられる内容であったと思われた。

恵那保健所（中津川市立加子母小学校）

● 支援を行った活動の内容等

- ・事業名：動物愛護教室時における「ふれあい事業」
- ・学校飼育動物健康管理事業に併せ、動物愛護教室を実施。推進員が動物を使い「ふれあい活動」を行った。

● 保健所担当者の所感

- ・参加した推進員は全員開業獣医師であり、うさぎを使ったふれあいは、子供たちだけでなく、推進員にとっても、今後に活かせる活動となった。

飛騨保健所（飛騨市内）

● 支援を行った活動の内容等

- ・事業名：猫の多頭飼育苦情対応への協力。
- ・自身の動物病院へ来院した、飼育方法を改善する必要がある猫の多頭飼育者に対し、保健所へ情報提供を行った。保健所の現地確認指導に同行し、適正飼養に関する助言や不妊手術の推進、譲渡あっせんなどへの相談などを行った。

● 保健所担当者の所感

- ・動物病院では、多頭飼育崩壊等の飼養者の飼養状況や問題を早期に探知できるため、保健所と密に連携をとることにより、指導を早期に開始することができる。
- ・不妊手術や病気についての対応がスムーズであった。

飛騨保健所（社会福祉法人中山福祉会 中山保育園）

● 支援を行った活動の内容等

- ・事業名：動物愛護教室
- ・犬、猫の接し方について講義。犬、猫とのふれあい。

● 保健所担当者の所感

- ・動物と接する機会が少ない園児たちに推進員がしつけた動物をふれあいに用いることで、安全で効果的に実施できた。

## 下呂センター（動物病院）

- 支援を行った活動の内容等
  - ・ 事業名：譲渡動物の健康診断
  - ・ 保健所から譲渡された犬の健康診断の実施。
- 保健所担当者の所感
  - ・ 飼い主が適正に終生飼養するためにも、今後も健康診断を促し、受診する機会を増やす必要があると思われた。

## ○ 岐阜県被災動物救援ボランティアリーダーの育成

災害時に動物救護活動を円滑に行うためには、ボランティアや動物愛護団体の協力が不可欠であり、個々のボランティア等の力を十分に発揮するためには防災知識及び動物愛護に関する知識を有するリーダーが必要となる。このため、災害時にリーダーとして活動する岐阜県被災動物救援ボランティアリーダーを養成し、登録している。（任期2年）

平成29年度は登録者への講習、平成30年度は新規登録者の養成を行った。

岐阜県被災動物救援ボランティアリーダーとは

### 1 活動内容

#### (1) 平常時

- ・ ペットの災害対策に関する飼い主等への普及啓発

#### (2) 災害時

- ・ 動物救護ボランティアの受付
- ・ 避難所や動物収容施設等へのボランティア派遣の割り振り
- ・ 避難所や動物収容施設等での飼養相談受付、飼養管理方法の指導及び技術支援
- ・ その他、岐阜県被災動物救援本部が必要と認めたもの

### 2 登録資格

岐阜県が実施する被災動物救援ボランティアリーダー養成講習会を3回以上受講し、登録しようとする時点で20歳以上であること。

## 講習会開催状況

### ○平成30年度（新規登録者への講習）

	演題	内容	講師	参加者数
第1回	災害時の心構えと対応	災害時の心構えと対応などについて学ぶ	岐阜大学地域減災研究センター 村岡 治道 氏	23
第2回	大規模災害発生時の対応（概論）と避難所における動物管理	被災動物の救援について学ぶ	特定非営利活動法人アナイス 平井 潤子 氏	23
第3回	ボランティア体験談	被災地でのボランティア活動体験談を聞く	ボランティアリーダー登録者	24



○平成31年度（登録者への講習）

	演題	内容	講師	参加者数
第1回	「ペット同行避難時の避難所対応について」～ペット版避難所運営ゲーム～	災害とボランティア活動について総合的な知識を学ぶ	防災士、清流の国ぎふ 防災・減災センター げんさい未来塾1期生 岐阜県動物愛護推進員 渡辺 英毅 氏	9

地域別被災動物救援ボランティアリーダー登録者数

地域	岐阜	西濃	中農	東濃	飛騨	合計
登録者数	10	4	16	3	9	42